

【学校運営協議会の委員の皆様からの御意見と学校としての対応】

学校運営協議員様からの御意見	学校としての対応
読書が親しんでいない子どもたちもいる。学校ボランティアとして、毎週読み聞かせに行っているが、そこでは集中して聞いている。しかし、自分で読むとなると億劫になるのか、短い簡単な本を読む子も多い。発達段階に応じた本を選び、じっくり読書ができる子どもを育ててほしい。	読書に楽しさを感じていない児童が多いことが課題であったが、図書委員会を中心に、読書活動推進に向けたクイズや読書ビンゴ、読書パズルなど、楽しい読書に向けた取組を行うことで、徐々に図書室を利用する児童が増えてきています。また、各学級で本の面白さを伝え合い、読書の楽しさ実感するためにおすすめの本を紹介し、最も読みたくなった本を決定する「ビブリオバトル」の取組も始まりました。今後も、児童が本を身近に感じ、楽しみながら読書を進められるように、図書委員会の企画を工夫したり、各学年で、また学年の枠を超えてビブリオバトルのような本に親しむ機会を増やしたりするなど、読書に親しむ子どもたちを育てていきます。
地域とのつながりを深める活動が多くなされ、地域住民が元気付けられている。今後も地域と学校の交流を続け、下灘地域の活性化とともに、心の豊かな子どもを育ててほしい。	地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、学校を核とした地域づくりを目指して、今年度から校区内の小学生が居住していない地域に出向いて交流する「おしゃべり交流会（8地区）」を行いました。回を重ねるごとに子どもの成長も実感し、何より地域住民からの期待感を強く感じる一年となりました。子どもたちの移動に関する課題はありますが、今後も地域に出向いた交流活動を続け、地域のよさを知り、地域を元気付けるとともに、心の豊かな子どもたちを育てていきます。
気持ちの良い挨拶ができている。地域住民や来校者、学校ボランティアの方々と活動することも多い。今後も、このような挨拶ができる子どもを育ててほしい。	「えがおいっぱい委員会」の活動の効果もあり、挨拶ができる児童が多くいます。今後もよくできている児童を称揚するとともに、地域の人や来校者に挨拶をしたり、会釈をしたりするなど、相手や場面に応じ、進んで気持ちの良い挨拶ができるように指導を続けていきます。また、相手の気持ちに寄り添った言葉遣いができるように、日常的な言葉遣いについても継続的に指導をしていきます。

行事や参観日の案内が届くたびに、毎回楽しみに参観している。心の教育とともに、生きる力となる学力の定着も、少人数のよさを生かし、一人一人に応じた教育を推進してほしい。	今年度は、人権・同和教育の推進に当たり、「人権ミニ研修」と称して教職員研修を定期的に行いました。今後も、人権・同和教育研修を行い、児童を指導する立場である教職員の人権感覚が高まるように努めていきます。 複式授業においても、校内研修を充実させ、一人一人の主体的な学びを育てるとともに、児童が文章を読み取ったり、読み取った内容や自分の考えを主体的に表現しようとしたりするための分かる授業づくりに努めていきます。来年度も、児童一人一人の学力を保証するために、教員間での情報共有等を積極的に行うなど深い学びに向けた授業改善を推進することで、教師の授業力の向上を目指します。 今後も、学校運営協議会委員の皆様には、参観日だけでなく、学校行事等を案内し、学校の教育活動を見ていただく機会をできるだけ多く設定していきます。
---	---